

阿波踊りにおける多様性について

—協会所属の連と非所属の連を比較して—

中村 久子 (徳島大学)

1. はじめに

現在の阿波踊りにどのような変化が加えられて踊られているのかについて、協会所属の、いわゆる有名連の踊りを記録、検討してきた。しかし、協会に所属していない連のなかにも踊りを多様に変化させて踊る連が存在する。そこで、協会に所属していない連の踊りについて各隊列ごとに記録、分析し、動きの多様性という面から協会に所属している連の踊りと比較することにした。

2. 研究の方法

協会非所属の連の阿波踊りをビデオに収録し、隊列と踊り方について連長に説明を聞き、補正し、図表化する。それを協会所属の連の図表化した動きと比較し検討を加える。

日時 1991年8月15日

場所 徳島市 藍場浜演舞場

対象 都連(連長 鎌田賢一, 以下M連)

3. 研究の結果と考察

(1) 隊列の多様化

1) M連の隊列について

演舞場には②女性の女踊り①女性の男踊り③男性の男踊りA④子供の男踊り⑤男性の男踊りBの順で入場する。その際、隊列①が入場後に隊列②を追い抜き、隊列③も入場後に隊列②を追い抜く。その後、隊列②が隊列③を再び追い抜くので、入場時と全ての隊列が入場し終えたときの隊形が異なる(図1)。このように隊列を群として意識し、隊列を入れ換える工夫が見られる。

踊る人の性別

男性 □ (四角形)

女性 ○ (円形)

子供 △ (三角形)

踊りの種類

男踊り ● (黒)

女踊り ○ (白)

その他 ◻ (点線)

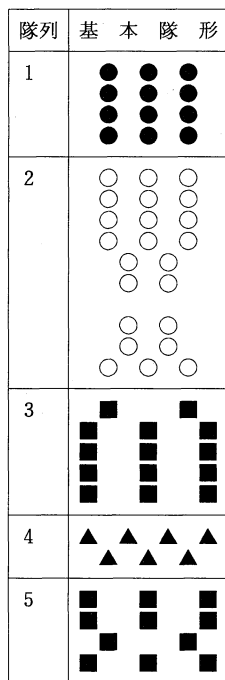


図1 M連の基本隊形

2) 協会に所属している連と比較して

過去に検討した、協会所属の連の隊列を区別すると次の四つになる。

I 女性の女踊りの隊列—男性の男踊りの隊列

II 女性の女踊りの隊列—男性の男踊りの隊列—子供の隊列 (この変型も含む)

III 女性の女踊りの隊列—男性の男踊りの隊列—女性の男踊りの隊列 (この変型も含む)

IV 女性の女踊りの隊列—男性の男踊りの隊列—子供の隊列—女性の男踊りの隊列 (この変型も含む)

M連の隊列はIVと同様で、多くの隊列を組み合わせ、その構成に変化をつけている。

(2) 動きの多様化

1) M連の動きの多様化について

隊列①は表1 表1 踊り方の変化 隊列1—女性の男踊り

のように、列を変えたり、群を集合、分散させるなかで、静止とジグザグに進む動きを取り入れ、繰り返し踊っている。隊列②は表2のように、列を変えたり、群を集合、分散させるなかでジグザグに進む動きを取り入れるとともにジグザグに進む動きと回る動きを組み合わせたり、静止を取り入れて、静と動の対比をだしている。隊列③はうちわを持つ腕を上下にリズムカルに動かし、群全体の動きをまとめている。隊列④、隊列⑤の構成には変化が見られない。

基本	三列縦隊	
変化1	二列になり、前列の女性の女踊りを通り抜ける	
変化2	三列になる	
変化3	集合	
変化4	静止	繰り返す
変化5	斜めにジグザグに進む	4・4
変化6	分散	

表2 踊り方の変化 隊列2—女性の女踊り

基本	三列縦隊
変化1	足踏み 女性の男踊りが列の間を通り抜ける
変化2	斜めにジグザグに進み、回る
変化3	二列になる
変化4	静止 二列の間を女性の男踊りが通り抜ける
変化5	二列がむきあって中に寄る
変化6	進行方向に向き、 女性の男踊りが通り抜ける
変化7	三列になる
変化8	集合
変化9	斜めにジグザグに進む 4
変化10	後退して列を整え、分散する

M連では女性の女踊りと女性の男踊りの隊列に重点をおいて、動きを多様に変化させている。男性の男踊りAには動きの変化はあまり見られない。しかし、女性の女踊りの隊列を追い抜いたり、追い抜かれたりすることや、上下に動かす腕の動きが揃っていることから、群としてまとまって踊る練習の跡が見られる。

2) 協会に所属している連の動きと比較して

協会に所属している連には、変化をつけずに踊る連もあるが、多くの連は様々な変化をつけて踊る隊列と変化をつけずに踊る隊列を組み合わせている。M連の場合も隊列①、②、③の動きの構成に多様な変化が見られ、協会所属の連と同様に、観る人を意識して踊っていると言える。

4. まとめ

協会に所属していない連のなかにも、M連のように隊列の組み方を工夫したり、動きを多様に変化させて踊る連が存在することが明らかになった。